

修士論文（要旨）
2015年1月

授受動詞の日韓対照研究
—助動詞に焦点をあてて—

指導 青山文啓 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
212J3005
金銀実

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究概要	1
1.2	授受動詞に対応する韓国語	3
第2章	授受動詞の動詞としての用法	4
2.1	「あげる, くれる」と「주다(juda)」	5
2.2	「もらう」と「받다(badda)」	8
第3章	日韓の待遇表現と「-てあげる, -てくれる, -てもらう」の韓国語訳	9
3.1	日韓待遇表現の相違	14
3.2	日本語の助動詞が韓国語訳で意識される場合	18
第4章	「-てあげる, -てくれる, -てもらう」に対応する韓国語訳	22
4.1	「-てあげる」と「-てくれる」	22
4.2	「-てやる」と「-てくれる」	24
4.3	「-てくれる」と「-てもらう」	26
第5章	結論	29

参考文献

要旨

本論文は、授受動詞「あげる、くれる、もらう」の助動詞としての用法を中心に、日本語とその韓国語訳を対照している。本稿に使われる例文は、小説『点と線』と『変身』およびその韓国語訳から収集している。

全体の構成は、第1章「はじめに」、第2章「授受動詞の動詞としての用法」、第3章「日韓の待遇表現と「一てあげる、一てくれる、一てもらう」の韓国語訳」、第4章「「一てあげる、一てくれる、一てもらう」に対応する韓国語訳」、第5章「結論」からなっている。

第1章 人間社会でモノや所有権をやりとりすることは基本的行為である。本稿では、授受動詞に関する両言語の相違点を類型別に提示する。両言語で相違がみられる理由について、事例に基づいて考察を加える。日本語でよく使われる授受動詞には「あげる、くれる、もらう」の三つがある。これら三つの動詞の前方に接続助詞「一て」が現れて「一てあげる、一てくれる、一てもらう」のように使われれば、授受動詞が助動詞として使われた場合と以下では考える。本稿では日本語の授受動詞に焦点をあて、日本の小説とその翻訳の中に現れる日韓両言語間の授受動詞の対照（方向性、人称、ガ格／ニ格など）を通して、日本語の授受動詞が韓国語にどのように翻訳されるかについて研究する。

第2章 「あげる、くれる、もらう」は、「与え手」と「受け手」のあいだにみられるものや所有権の移動を表わす。日本語では「与え手」と「受け手」の区別だけでなく、どちらがガ格およびニ格に、さらに1人称、2人称、3人称のどれかによって、これら授受動詞が使い分けられる。つまり、日本語は人称上の制約があることがわかる。それに対して、韓国語の「주다(juda)」は日本語の「あげる、くれる、もらう」に対応する。つまり、韓国語では、人称の制約とは関係なく使われる。「받다(badda)」も「주다(juda)」と同じく、「人称の制約」に関わらない。「주다(juda)」は「与え手」がガ格をとる。

第3章 本章では小説からの用例を中心に、日本語の授受動詞の助動詞としての用法が韓国語に翻訳される場合、翻訳上の傾向と両言語の相違について考える。

動詞(V)は通常いくつかの名詞を取る。「だれのために」を表現するため、授受動詞の助動詞としての用法は、その動詞(V)が取る特にガ格とニ格について手がかりを与えるために使われる。1章でも述べたように、韓国の「받다(badda)」には特殊な場合以外「一てもらう」に相当する助動詞の用法はない。また、韓国語は日本語のように、助動詞としての「あげる、くれる、もらう」が連続して「この子猫もらってあげてくれる」のように表われることはない。しかし、「話してあげてくれ」の場合「一てあげる」も「一てくれる」も韓国語では「一어 주다(eo juda)」に訳されるため「話してあげろ」に相当する翻訳となる。

韓国語訳の意識には「一세요/시오(se-yo/si-o), 一게(ge), 一겠(get)一」3種類がある。ここでは日本語の「あげる、くれる、もらう」が「주다(juda)」および「받다(badda)」以外に翻訳される場合を、便宜的に「意識」と呼ぶ。韓国語では「一세요/시오(se-yo/si-o)」が丁寧や敬意を表わす命令形で、翻訳されている例はすべて日本語の「一てくださる」に対応する。「一게(ge)」に訳される例は「주다(juda)」を入れても成立するが、会話の場面によって、「用言一게(ge)」で充分であれば省略して使う。「一겠어(geseo)」は動詞に後

続いて、意志や決意を表わす。「-烈(get)-」は動詞の語幹について1人称主体の意志を表わす。

第4章 本章では助動詞としての用法とそれに対応する韓国語訳を考察している。日本語では「与え手」が2人称で「受け手」が3人称の場合か、「与え手」が3人称で「受け手」が2人称または3人称の場合は「-てあげる」と「-てくれる」がどちらも可能である。ただし、この場合は「話し手」と「与え手」あるいは「受け手」が、親族や組織内などの関係である場合、「-てあげる」と「-てくれる」は使い分けられる。それに対して、「-あげる、-てくれる」に対応する韓国語は「-어 주다(eo juda)」しかない。この場合、韓国語には「人称の制約」も、「話し手」との関係も関わらない。しかし、ガ格は必ず「与え手」である。

「다오, 달라(da-o, dalla)」は하오(ha-o)体(てください)の命令形と間接話法での命令形の場合、「주다(juda)」の交替形(補充法)として使われるものである。韓国語訳は「-어 달라(eo dalla)+고(go)+V」の形式を取る。

「-てくれる」は韓国語に翻訳する場合、助動詞を省略することが可能である。「주다(juda)」を省略しても、その日本語原文の意味が変わらず、文が成立する。前に述べた命令形「달라(dalla)」以外、ガ格とニ格を変更せずに韓国語の「-어 주다(eo juda)」に翻訳することが可能である。小説を翻訳する時、文の長さや場面などを考えた上、翻訳者によっては「-てくれる」を省略する場合がある。

第5章 結論では、日本語とその韓国語訳に見られる授受動詞の「与え手/受け手」、人称、格における相違点、また助動詞としての日韓両言語間翻訳上の問題点について明らかにしてきた点をまとめている。本論では、授受動詞の日韓両言語に見られる相違点について、主に助動詞の用法を中心に考察を加えた。特に、日本語は助動詞を連続して使うことが可能ですが韓国語は使えないこと、「-てやる」が不利益を与える場合、韓国語でも使用可能であること、日本語は授受動詞の助動詞としての用法で複雑な人間会計を表わすが、韓国語はそれほど助動詞としての用法が発達してないことなどがある。

参考文献

- 青山秀夫 (1987) 『基礎朝鮮語』 大学書林
- 庵功雄 (2001) 『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』 スリーエーネットワーク
- 奥津敬一郎 (1979) 「日本語の授受動詞構文—英語・朝鮮語と比較して—」 『人文学報』 132
東京都立大学
- 奥津敬一郎 (1984) 「授受動詞文の構造—日本語・中国語対照研究の試み—」 『金田一春彦
博士古稀記念論文集』 第2巻
- 奥津敬一郎 (1984) 「授受動詞文の意味と文法」 『日本語学習と研究1』
- 菅野裕臣 (2007) 『朝鮮語入門 改訂版』 白水社
- 久野暲 (1978) 『談話の文法』 大修館書店
- 宮地裕 (1965) 「「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について」 『国語学』 63
- 宮地裕 (1976) 「日本語の文法単位体」 『岩波講座日本語6 文法I』 岩波書店
- 豊田豊子 (1974) 「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」 『日本語学校論集』 1,
東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 辻村敏樹 (1963) 「敬語の分類について」 『言語と文芸』 3月号
- 堀口純子 (1987) 「「～テクレル」「～テモラウ」の交換性とムード的意味」 『日本語学』 6
—4 明治書院
- 荻野網男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧顕松 (1990) 「日本語と韓国語の聞き手に対する
敬語用法の比較対照」 『朝鮮学報』 第136輯 朝鮮学会
- 松下大三郎 (1924) 『標準日本語文法』 紀元社
- 南不二男 (1987) 『敬語』 岩波新書
- 山田敏弘 (2001) 「§13 授受の表現」 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 『中上
級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク
- 남기십・고영근 (1996) 『표준 국어문법론 개정판』 塔出版社
- 李孝貞 (2005) 「授受動詞에 관한—考察 - 日本드라마 속의 場面 分析」 中欧大学
教育大学院 修士論文
- 盧顕松 (2007) 「現代日本語の敬語と文法」 韓国外語大学大学院 博士論文
「로마자 표기법」 (2007年7月) 문화관광부 2000-8호 <http://www.korean.go.kr/09_new/dic/rule/rule_roman_0101.jsp> (参照 2013-8-15)

用例出典

- 松本清張 (1968) 『点と線』 新潮文庫
- 東野圭吾 (1994) 『変身』 講談社
- 정태원역 (2009) 『점과 선』 태동출판사
- 이선희역 (2005) 『변신』 도서출판 창해